

2009 年度の取り組み

2009 年度は、南キブ州カロンゲ区域の 12 ヶ村の元子ども兵、性的虐待を受けた女性、孤児などの社会的弱者 711 名、及びその家族 2700 名を対象に、紛争下において、衣・食・住など人間としての基本的ニーズを満たすことを目標に活動を行いました。

(1)食料確保のための相互扶助(助け合い)活動

同地域は、現在も武装勢力(FDLR:ルワンダ解放民主勢力)の影響下であり、村々の襲撃や住民の殺害、食糧の略奪などによって、人々は不安定な生活を余儀なくされています。

そこで、生存のために必要な食糧を確保するために相互扶助グループを組織し、農業指導や農具・種子の供与、魚の養殖池の整備などを行いました。

対象地域 12 ヶ村の各グループが協力して食糧を生産し、収穫が少なかったり、武装勢力による食糧の略奪などの影響を受けた他のグループを補助する仕組みで、受益者の相互扶助(助け合い)を促進しながら自給食糧の安定化をめざしました



魚の養殖準備に取り組む元子ども兵たち/紛争下で自給用農作物を収穫する受益者

2009 年度は現金収入のための余剰作物までは生産できなかったものの、12 ヶ村の全グループが自給に必要な作物を生産することが出来ました。

また、魚の養殖用の母体となるため池が完成し、稚魚 1280 匹を放流し、4 カ村(4グループ)がそれぞれの村に母体池で繁殖した稚魚を放流するための池を完成させました。

(2) 収入向上の為の職業訓練

元子ども兵 15 名への木工大工の職業訓練、紛争被害を受けた 11 名の女性への洋裁訓練を実施しました。

また、手工芸品(ペーパービーズ)の指導員を育成するために GRAM スタッフへの研修を行い、育成された指導員が元子ども兵や紛争の被害者 20 名へのペーパービーズ製作の技術指導を行いました。



洋裁訓練の修了証書を手にする紛争被害を受けた女性



木工大工の訓練を受ける元少年兵

(3) 初等教育支援

現地住民の協力の下、紛争下で教育の機会を奪われていた 158 人の孤児に 1 年間の基礎教育(インフォーマル教育)を行いました。

※小学校低学年程度の基礎教育能力を身につけ、面接などの試験に受ければ、公立小学校の中学年に編入できます。



教育の機会を奪われ、小学校に通うために基礎教育(インフォーマル)を受ける孤児達

(4) その他の活動

対象地域の主要産業の一つが木材産業であるため、持続可能な資源の利用を目的とした、環境教育ワークショップを地元の木材ビジネスのグループや住民に対して 2 度行いました。

また、元子ども兵と現地住民が協力し、政府の土地に 12,000 本の植林を行いました。また、元子ども兵が心理社会的に安定するよう、個別カウンセリングを行いました。